

種名	マ コ モ				
	Zizania latifolia				
					
分類	被子植物単子葉植物綱イネ科	俗称	ハナガツミ、コモなど	生活型	多年草、抽水植物
分布	北海道から九州、シベリア東部、中国、インドシナに分布する。				
形態	根：泥中に径 1.5～2 cm の円筒形の根茎を横走する。根茎は多節で、長さ約 10 cm のひげ根を節ごとに輪生する。根茎の内部には、5～8 mm 間隔に白色または淡紫色の薄い隔壁がある。 茎：4～5 月頃、根茎の先端にある越冬芽から新芽を出す。新芽は伸びて高さ 1～3 m の桿状の茎となる。桿は直立して堅く、中空で隔壁がある。茎の下部は径 8～15 mm であるが、上方は細くなり花序の基部では 3～5 mm になる。 葉：葉は長披針形で互生し、桿の下方に多くつく。青または粉白色を帯びた緑色で長さ 40～100 cm、幅 2～3 cm で、縁は著しくざらつく。 葉の下方は肥厚して葉鞘となって茎を抱き、葉の先端はしだいに尖る。 花：花期は 8～10 月。桿の頂部に長さ 30～60 cm のよく分枝した円錐状の花序をつける。花序の上部につく小穂は雌性で淡緑色で線形、長さ 18～25 mm で 2～3 cm の直立した芒がつく。 花序の下方の小穂は雄性で長さ 8～12 mm、汚赤紫色を帯びて下垂する。 果実：果実はこん棒状の穎果で長さ約 1 cm、暗灰色で内部は胚乳組織が発達し、胚は胚乳の側面につく。				
類似種	ミクリの仲間は互いによく似ており、識別が難しい。主な種の見分け方は下表のとおりである。				
生息場所	全国各地の池沼や河川、水路などの浅水中に群生する。砂質より有機質の多い泥質を好み、抽水植物の中ではヨシなどに比べて、より沖合いまで進出する。生育水深は 0.2～1.0 m 位といわれている(三木, 1927)。マコモの群生地は、ウキヤガラ・マコモ群集にまとめられる。				
繁殖	種子、地下茎(茎根)で越冬し繁殖する。花期は 8～10 月で、結実して穎果を作る。繁殖の中心は地下茎で、4～5 月頃、地下茎の先端にある越冬芽から新芽を出す。				
他生物との関係	抽水植物群落はコイ、フナなど一部の魚類の産卵に利用されるほか、稚魚の隠れ場や増水時の避難場所にもなる。果実は家畜の飼料となる。タテジマキバガ、ニカメイガなどの食草である。				
配慮のポイント	マコモなどの抽水植物は、魚類などの産卵や避難場所として利用されている。また、栄養塩類の除去などの水質浄化に役立っている。また、マコモは地下茎がよく発達し、護岸の機能にも優れている。河川改修や埋立て等の実施に当たっては、抽水植物が生育する水際部を極力、保全する必要がある。				
トピック	黒穂菌の一種が寄生して葉が伸びずに筍状に肥厚軟化したものは、中国料理の食材に用いられる。昔は葉を用いて敷物(菰)を作ったことから、真菰の名がついたといわれる。				
その他					
引用文献：『川の生物図鑑』を改変					